

川に親しむ

「米子野鳥保護の会」会長

やすだ のぶゆき
安田 亘之 さん（米子市石井）



安田 亘之さん

「日野川は、散歩をしながらバードウォッチングができる楽しい場所ですよ」と、県内でも有数の野鳥の生息地である日野川の魅力を語るのは、「米子野鳥保護の会」の会長をつとめる安田亘之さんだ。「8倍程度の双眼鏡と、ポケット版の野鳥図鑑を持っていくとその楽しみも倍増しますよ」と微笑む。

安田さんの説明によると、日野川は県内3大河川（千代川、天神川、日野川）の中でも有数の野鳥生息地。平成8年発表によるデータによると、日野川で観測される野鳥は132種類も記録されています。

特に10月から3月にかけての時期がピークで、河口からわずか5キロメートルほどの間で、ガン、カモ、ワシ、タカ類などの野鳥の姿が数多く観測できるという。しかし、小鳥類は、ヨシ等の繁る場所でひっそりと暮らしていることが多いため、「普段、散歩を楽しんでおられる方の中でも、意外と気付いていない方が多いかもしれませんね」。



潜水で魚類を捕らえる珍しいカモの仲間 カワアイサ左 右



中洲で繁殖する
国鳥 キジ

安田さんが野鳥に親しむようになったのは、12歳のとき。生まれ育った熊本から両親の故郷である米子市へと帰省する際、早朝に通りにかかった中海で、そこで飛び交う野鳥の姿を列車の窓越しに見て「なんて素晴らしいところだろう」と感動。野鳥の魅力を体感したそうだ。

その後、自宅でブンチョウやハトなどの鳥を飼育し、高校時代には部活動の合間に、大山で開催される探鳥会にも参加してきた。雄大な大山の自然の中で野鳥を見つけふれることの面白さはもちろん、その過程で先輩から様々なことを教わることの楽しさをここで感じたそうだ。自らが感じた自然とそこに生息する野鳥の魅力と感動を、先輩から後輩に教え伝えていくこと。これによって、自然とふれあうことの喜びと楽しさがたくさんの人々に広がっていく。これが安田さんの会活動の基盤になっている。

米子野鳥保護の会は現在、鳥取・島根両県の愛鳥家約150人が会員。昭和22年のスタート以来、米子水鳥公園建設に向けた活動や探鳥会等のイベントをはじめ、様々な自然保護活動を展開している。

今冬も、日野川や大山を会場にしての探鳥会を計画している。「親子連れでの参加も多いですよ。特に子供たちは、野鳥を間近に見るといって、普段の暮らしではなかなかできない体験に目を輝かせています」。こう語る安田さんの瞳も、まるで12歳のとき中海の野鳥に感動したころのように輝いていました。皆さんも身近な日野川の自然にふれあってみては、いかがでしょうか。 写真提供：安田 亘之氏



日野川に生息する鯉など魚類を狩る鷹 ミサゴ

日野川今昔

故きを温ねて

出雲街道

④

出雲街道をゆく

まじたわ 間地峠

間地峠は、標高479メートルの高さにある。両側から迫る山の間をわずかばかりの平地に石地蔵が安置されている。この平地には、参勤交代の頃は数件の茶屋もあったという。

寛文年中（1661～1672年）に二部の足羽五兵衛他、日野郡の有力者が、間地峠を修理、中安井の地に渡舟を作り「舟場」とし、四十曲峠を改修した。そしてこの路線を「出雲街道」と公称するのを得た功労者たちが、本陣やお茶屋に仰せ付けられたと名称出雲街道の起こりを今に伝えている。



間地峠にある出雲街道をしるす道標



間地峠から大山を望む

